



生物多様性ふじ戦略

[2020-2030]

— 未来へつなぐ 富士市の自然といきもの —



富士市

ご挨拶

富士市は、富士山をはじめとする豊かな生態系によって、森林資源や湧水などの「生物多様性のめぐみ」が育まれ、古くから紙のまちとして発展し、産業都市として着実な歩みを遂げてきました。

しかしながら、その背景には、田子の浦港のヘドロや大気汚染などの公害問題が発生し、大きな社会問題となった時期もあり、市民、事業者、市が力を合わせてこれを克服いたしました。

その後、富士市環境基本条例に基づき、良好な環境を守り、育て、次世代に継承していくため、平成 13 年度に富士市環境基本計画を策定し、その個別計画に基づく施策を実施してまいりました。

近年では、都市化や開発による生物の生息・生育環境の減少や悪化、高齢化や担い手不足による森林や里地里山の荒廃や衰退、地球温暖化による気候の変化、外来種による生態系への影響など、様々な環境の変化によって、地域固有の生物多様性が失われつつあります。

私たちの生活は、水や空気、食糧、自然の景観など、多様な生態系や生物がもたらすめぐみによって支えられています。このめぐみを将来にわたり享受していくためには、生物多様性を保全していかなければなりません。

「生物多様性ふじ戦略」は「いきものと深くつながり、めぐみあふれるまち ふじ」を将来像として掲げ、様々な取組を進めてまいりますが、この目標の達成には市民、事業者、関係機関等の皆様と緊密な連携や協働が不可欠であります。将来の世代に豊かな生物多様性を引き継ぐため、幅広い皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本戦略の策定に当たり、貴重なご意見をいただきました多くの市民及び事業者の皆様から心から感謝申し上げますとともに、富士市環境審議会の委員の皆様には、熱心にご審議いただいたことを心から御礼申し上げます。

令和 2 年 3 月

富士市長 小長井 義正



この戦略の読み方

市民や事業者の方で、戦略の概要が知りたい場合は、黄緑色の部分を読んでみましょう。

戦略の構成

内容

はじめに

- ◆富士市の生物多様性の特徴
- ◆富士市の生物多様性の課題

●富士市と生物多様性の関わりは？

まずは本市の生物多様性の特徴や課題としてどんなものがあるか見てみましょう。みなさんはいくつ知っていましたか？

第1章 生物多様性地域戦略とは

- ◆生物多様性とは
- ◆地域戦略の基本的事項

●生物多様性地域戦略とは何か？

生物多様性の定義、生物多様性のめぐみ、生物多様性に迫る危機などについて紹介するとともに、本戦略の策定のねらいなどを示しています。

第2章 生物多様性の現状と課題

- ◆富士市の地域特性
- ◆動植物
- ◆生態系
- ◆人との関わり
- ◆生物多様性に関する課題

●富士市の生物多様性の特徴は？

本市の生物多様性の現状と課題について、動植物、生態系、人との関わりからの視点からまとめています。

第3章 戦略の基本的な考え方

- ◆将来像（2050年における富士市の姿）
- ◆2030年までの目標
- ◆基本方針

●2050年までに目指す姿とは？

本市が目指す2050年の将来像、2030年までの目標などを示しています。

第4章 行動計画

- ◆行動計画
- ◆重点プロジェクト
- ◆重点地域

●具体的にどんな取組をするか？

将来像や2030年までの目標を実現するため、市が実施する取組や管理指標、重点プロジェクト、重点地域などを示しています。

第5章 推進体制・進行管理

- ◆戦略の推進体制
- ◆戦略の進行管理

●戦略をつくった後はどうするか？

本戦略の策定後、着実に推進していくことができるような体制と進行管理の方法を示しています。

第6章 市民・事業者のみなさんへ

- ◆家庭のできる取組事例
- ◆事業所のできる取組事例

●市民・事業者の取組事例は？

市民や事業者のみなさんが生物多様性に配慮した取組を行う際に参考となる事例を紹介しています。

資料編

- ◆用語解説

●難しい用語の意味は？

難しい用語の解説を紹介しています。

目次

●はじめに	1
富士市の生物多様性の特徴	3
富士市の生物多様性の課題	5
●第1章 生物多様性地域戦略とは	6
第1節 生物多様性とは	6
1-1 生物多様性の定義	6
1-2 生物多様性の3つの視点	7
1-3 生物多様性のめぐみ「生態系サービス」	8
1-4 生物多様性に迫る4つの危機	9
第2節 地域戦略の基本的事項	12
2-1 戦略策定の背景	12
2-2 戦略策定のねらい	14
2-3 地域戦略の期間	14
2-4 地域戦略の位置付け	15
2-5 地域戦略の対象地域	15
●第2章 生物多様性の現状と課題	16
第1節 富士市の地域特性	16
1-1 歴史	16
1-2 位置	17
1-3 人口	17
1-4 産業	18
1-5 気象・気候変動	19
1-6 地形・地質	21
第2節 動植物	23
2-1 富士市の生物の概要	23
2-2 重要種等	31
2-3 外来種・遺伝的攪乱	33
2-4 野生鳥獣	36
第3節 生態系	38
3-1 土地利用と生態系区分	38
3-2 奥山（富士山地区・愛鷹山地区）	42
3-3 里地里山（富士山地区・愛鷹山地区・富士川地区）	44
3-4 田園・湿地	47
3-5 市街地	49
3-6 河川・湧水地	51
3-7 海岸・海洋	52
第4節 人との関わり	55
4-1 環境汚染	55
4-2 生物多様性に関する教育・情報提供	57
第5節 生物多様性に関する課題	62
5-1 動植物に関する課題	62
5-2 生態系に関する課題	62
5-3 人との関わりに関する課題	63



● 第3章 戦略の基本的な考え方	64
第1節 将来像（2050年における富士市の姿）	64
第2節 2030年までの目標	64
第3節 基本方針	65
● 第4章 行動計画	67
第1節 行動計画	67
行動方針1 野生生物を調査する	68
行動方針2 重要種・外来種・野生鳥獣への対策をする	69
行動方針3 生物多様性に配慮して自然を利用する	72
行動方針4 奥山や里地里山の生態系をまもる	73
行動方針5 田園・湿地の生態系をまもる	76
行動方針6 市街地の生態系をまもり育てる	79
行動方針7 河川・湧水地・海岸・海洋の生態系をまもる	80
行動方針8 環境への負荷を少なくする	82
行動方針9 生物多様性に関する人材育成や啓発をする	85
第2節 重点プロジェクト	89
第3節 重点地域	93
● 第5章 推進体制・進行管理	96
第1節 戦略の推進体制	96
第2節 戦略の進行管理	98
● 第6章 市民・事業者のみなさんへ	99
第1節 家庭でできる取組事例	99
第2節 事業所でできる取組事例	102
● 資料編	105
1 用語解説	105
2 策定の経過	108
3 委員名簿	109

 column
コラム

○ 静岡県版レッドリスト・レッドデータブック	9
○ 生物季節への影響	20
○ 富士市自然環境マップの調査から分かったこと	24
○ 富士市の植生の概要	26
○ 竹取物語や富士の巻狩りから学ぶ生物多様性	35
○ 絶滅のおそれのある地域個体群のツキノワグマとニホンザル	43
○ トンボの生息地（浮島沼つり場公園・赤ドブ池）	48
○ あさひ・いのちの森（旭化成株式会社・旭化成ホームズ株式会社）	50
○ ピオトープづくり（東芝キャリア株式会社富士事業所）	50
○ ハシブトガラス	50
○ 里地里山の重要種についての保全対策	73
○ 浮島ヶ原自然公園での保全活動	78
○ マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリ	81
○ 富士市環境アドバイザー制度	86

はじめに



「**生物多様性**」という言葉を知っていますか？

難しい言葉だと思ってしまうかもしれません。

でも、ヒトは生物であり、ほかの生物とつながり合いながらそのめぐみを受け、生きてきたのです。

私たちの暮らす富士市もまた、富士山をはじめとする豊かな自然の中で生物多様性のめぐみに支えられているのです。



イワユキノシタ



ホトトギス

須津川溪谷・大柵の滝



カジカガエル

「生物多様性ふじ戦略」は
生物とそれを支える自然環境からなる
生物多様性を将来にわたり
守り活かしていくためのものです。

この地域戦略を読んで
富士市の生物多様性のために、今、何ができるのか
一緒に考えてみませんか？

実はこんなにすごい！ 富士市の生物多様性の特徴

※内容を詳しく知りたい場合は、【⇒P.〇〇】を参照してください。

■日本の生物を東西に分ける境界にある

本市を境界として、分布が変わる植物や動物が確認されています。

【⇒P.23】



■5,900種を超える生物がいる

本市では、植物・動物合わせて5,900種（静岡県内の野生生物のうち約4割）を超える生物が確認されています。【⇒P.24】



■植物の垂直分布が観察できる

富士山では、標高によって生育する植物の種類が移り変わる典型的な「垂直分布」を観察することができます。【⇒P.25】



■竹取物語から生物多様性を学ぶことができる

本市が発祥の地とされる竹取物語から、平安時代に人は竹を採り、いろいろな事に使う生活をしてきたことが分かります。

【⇒P.35】



■富士山・愛鷹山の自然がしっかり守られている

世界文化遺産の富士山、富士箱根伊豆国立公園、愛鷹山自然環境保全地域などで貴重な自然が守られています。【⇒P.39】



■高山から深海までの多様な生態系がある

高山から海岸、そして駿河湾の深海まで、多種多様な生態系が存在し、多くの生物を育てています。【⇒P.40】



■絶滅危惧種のサワトラノオが生育する

浮島ヶ原自然公園のサワトラノオは、全国随一の群生地といわれ、県内ではここでしかみられません。【⇒P.47】



■県内でも少なくなった湿地の生態系がある

静岡県の「今守りたい大切な自然」に選ばれている浮島ヶ原は、今も残る貴重な湿地です。

【⇒P.48】



■ビオトープづくりをしている事業所がある

本市には、緑豊かなビオトープづくりを積極的に行い、生物多様性の保全に貢献している事業所があります。【⇒P.49,50】



■日本三大急流の富士川がある

日本三大急流の富士川の河口の川幅は日本一。河口部は野鳥が多く、富士川を分布境界とする生物も多くみられます。【⇒P.51】



■豊富な湧水がまちなかや海底にある

富士山の雪解け水などを起源とする湧水がまちなかや海底にあり、多くの生物のオアシスとなっています。【⇒P.52,54】



■環境教育が盛んに行われている

環境アドバイザー制度やこどもエコクラブなどの活動が活発です。【⇒P.57】



しかし、こんな問題も！ 富士市の生物多様性の課題

※内容を詳しく知りたい場合は、【⇒P.〇〇】を参照してください。

■自然環境や生物に関する 情報が不足している

本市の自然環境や生物に関する情報は古いものも多く、最新の情報が不足しています。

【⇒P.24】



■絶滅のおそれのある 生物がいる

本市ですでに絶滅した生物は4種、絶滅のおそれのある生物は234種確認されており、今後も絶滅が懸念されます。【⇒P.31】



■外来種が 侵入している

本市では外来種が増加しており、アライグマなどの特定外来生物も確認されているため、対策が必要です。【⇒P.34】



■野生鳥獣による 被害が増えている

ニホンジカやニホンイノシシなど、野生鳥獣による農林業や自然生態系への影響が深刻化しています。【⇒P.36】



■市街地が拡大して 農地が減少している

市街地が拡大する一方で、農地が減少しており、カエルやメダカなどの動物の生息地が失われています。【⇒P.38】



■人工林や里地里山の管理が 不足している

林業従事者の減少や里地里山の利用の減少などにより、森林の管理が不足しています。

【⇒P.44,45】



■湿地の環境が なくなってきた

浮島ヶ原の広大な湿地の環境は次第になくなり、今は浮島ヶ原自然公園で湿地環境が保全されています。【⇒P.48】



■海岸林では 松枯れが目立つ

富士海岸では外来種のマツノザイセンチュウによる松枯れがみられます。【⇒P.53】



■産業活動による負荷が自然環境 に影響を及ぼしている

ヘドロで汚染された田子の浦港の環境は回復しましたが、産業活動による負荷が自然環境に影響を及ぼしています。【⇒P.55,56】



■海洋ごみによる 影響が心配されている

捨てられたプラスチックなどの海洋ごみによる生態系への影響が懸念されています。

【⇒P.56】



■生物多様性のめぐみを活用した 啓発が不足している

生物多様性のめぐみを人と自然とのふれあいの場や、生物多様性の啓発に活用していく必要があります。【⇒P.58】



■「生物多様性」という言葉が まだ浸透していない

「生物多様性」という言葉やその意味は、一般にはまだ浸透しておらず、普及啓発していくことが重要です。【⇒P.59】

